



## 井上 泰夫氏

# オーブン カレッジ

世界経済の先行きは不透明である。そのなかで、いち早く制度的な枠組みを含めて国際的・地域経済統合に取り組んできたのがEU（ヨーロッパ連合）であり、東アジアにおけるような企業間の国境を越えた実質的な市場統合ではな

このうえ、やすお 制度  
経済学。パリ第2大学。1  
951年生まれ。

く、政府間交渉によるルール  
の共通化が進められてきた。  
その最大の制度的な成果は、  
共通通貨ユーロの存在であ  
る。ユーロは2009年以来、  
危機から根本的に脱出できな  
いでいる。いったい、グローバ  
ル経済における競争の中で、  
財政破綻させることは、ユー

## ユーロ冬の時代

生き残りをかけた戦略とし  
てユーロは登場したのに、な  
ぜ、うまくいかなかったの  
か。  
具体的には、ギリシャやス  
ペインなどの国債の価格が低  
下して、利率が騰貴した結果、  
結果、現在、ギリシャ、スペ

## 制度立て直しが必要

インの国債の金利は低下して  
おり、資本市場は沈静化して  
いる。だが、事態の根本的な  
解決には至っておらず、先行  
きは依然として不透明であ  
る。その理由は、ユーロ危機が  
たんなる金融危機ではなく、  
その背景に各国の実体経済の  
危機を抱えていることにあ  
る。  
ユーロ圏は単一ではない。  
北欧では、ドイツを中心とし  
て製造業の動態が形成されて  
いるのに対して、南欧諸国で  
は、国内に明確な産業基盤が  
存在しない。そのため、北の  
工業製品は、南に対してEU、  
ユーロ圏の内部で高い競争力  
をもつ。競争力のある製品を  
作るための制度的なネットワ  
ークが中小企業を含めて存在  
するべく、ユーロを北と南で  
区分する案である。そして、  
さまざまな労働改革によって生  
産コストが削減されている。  
替レートが変動できるように  
する。きわめて現実的なシナ  
リオであるが、はたして、そ  
れが制度的に実施可能である  
のか、議論の余地がある。い  
ずれにしても、ユーロが冬の  
時代を乗り越えるための新た  
な制度的な工夫が必要になっ  
ている。（さらに詳しい議論  
については、『国際地域経済研  
究』第14号、2013年を参  
照されたい）

ユーロ圏の内部で高い競争力  
をもつ。競争力のある製品を  
作るための制度的なネットワ  
ークが中小企業を含めて存在  
するべく、ユーロを北と南で  
区分する案である。そして、  
さまざまな労働改革によって生  
産コストが削減されている。  
替レートが変動できるように  
する。きわめて現実的なシナ  
リオであるが、はたして、そ  
れが制度的に実施可能である  
のか、議論の余地がある。い  
ずれにしても、ユーロが冬の  
時代を乗り越えるための新た  
な制度的な工夫が必要になっ  
ている。（さらに詳しい議論  
については、『国際地域経済研  
究』第14号、2013年を参  
照されたい）

